

第1回全国救助技術交流集会(11/4-5)の報告②

救助隊(OWCC) 森浜 学

長野県川上村の小川山の手前にある岩根山荘にて、11/4(土)朝から5(日)朝まで全国登山主催のロープを使った登山者のための救助技術交流会(救助隊交流会ではなく、登攀者対象)が行われました。前回①にて、実施項目と午後のセルフレスキューデモンストレーションのみ報告しました。今回は、夕方の医療研修2題と午前中の懸垂の登り返しロープ登行競技等についての報告です。

医療研修1つ目は、東京 沼田医師による「安全登山のための健康管理」について、

- ・登山遭難の現況・・・「過去の栄光 過去のもの」、25歳をピークに心身機能衰える。「自覚が重要」。
- ・登山遭難と疾病・・・遭難原因で病気は8%だが、**死亡原因は外傷52%に次いで心疾患22%と高い。**
- ・生活習慣病・・・動脈硬化のリスク高い⇒脳卒中、心筋梗塞、腎不全。食べ過ぎ・飲み過ぎはしない。
- ・持病のある人は・・・循環器の病気を指摘されている人は、常日頃の病状コントロール。無理しない。
- ・登山が継続できるために必要なこと・・・日頃の健康管理、トレーニング、病気があってもコントロール下。

医療研修2つ目は、大阪 柳川医師(中級校長)による応急手当講座、

- ・傷・・・まずは、PETの蓋に穴を開けたものを準備しておき、きれいな水で十分な洗浄をする。
- ・止血のポイント・・・出血箇所をピンポイントでしっかり押さえて直接圧迫止血。・各種骨折、捻挫。
- ・意識の無い人が倒れていたら・・・ログロール、胸の動きで呼吸確認、出血・怪我確認対処、回復体位。

午前の全員参加のロープ登行競技は、高さ8mほどのシングルロープとハーフ(ダブル)ロープを、1回づつ登った時間の合計タイムで競いました。全員では無く、43名の参加でした。

1位:高良(静岡43歳)2'7"、2位:橋本(宮城56歳)2'24"、3位:曾根崎(静岡44歳)2'42"、4位:下机(岩手69歳;最高齢タイ)2'45"、5位:東(東京54歳)2'46"、6位:淵上(兵庫62歳)2'49"、7位:賀川(神奈川 女性1位)2'53"、8位:森浜(大阪59歳)3'19"、(以降大阪のみ)10位:松本、11位:川田、16位:村中(女性2位)、19位:松本(雅)(女性3位)、20位:河野、24位:岡林、29位:吉田(以上8名参加)、プービー13'22"、プービーメーカー(43位)16'15"でした。

11/5は朝食後、朝から閉校式。一旦解散。(11/3と11/5は、オプションで、クラッククライミング)その後、予約申込者によるクレイジージャム(10d?)と小川山レイバック(5.9)でのカムプロテクションのセッティング練習。でも、みんなあまりクラックを登っていないようで、クライミングが中心でした。

11/3も別のルートで同様に行なわれたのですが、この日は湯川の岩場に寄っていたので内容は分かりません。この日の夕方、食材を調達に佐久甲州街道(R141)沿いのナナーズ小海店に寄った

のですが、食材をカゴいっぱいに入れた山賊風のおっさんが居りました。よく見ると青木さんでした。